

科目名称：	経済学概論（ビジネス実務学科）	
担当者名：	王玉	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
本講義は経済学の基本的概念を習得することを目的とする。「経世済民」から由来する「経済」、「経済学」、そしてその見方・考え方が理解できるように学習する。単なる経済学の概説にとどまらず、日本経済と世界経済の流れとともに景気の変動と消費の関係などをリアルタイムで捉える。		
授業の達成目標・到達目標		
①経済に関する基礎的な用語や概念が理解できるようになること、 ②主な経済指標の読み方、経済動向の見方、経済政策の考え方などが理解できるようになること ③上記①と②をもとに経済運営にともなう諸問題について議論や意見交換ができるようになること。		

基礎教育科目		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。		○
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。		

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 （レポート含む）	その他	合計
全学DP(1)		90		10	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》企業経営者（社長）	《経験年数1》 9年
	《内容2》コンサルタント会社社長	《経験年数2》 4年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
講義で説明された基本的な経済用語と基本概念を理解すること	講義で説明された基本的な経済用語と概念を完全に理解している	講義で説明された基本的な経済用語と概念を凡そ理解している	講義で説明された基本的な経済用語と概念についてヒントを与えれば理解できる	講義で説明された基本的な経済用語と概念についてヒントを与えても理解できない
経済学的見方・考え方が理解できること	講義で説明された基本的な経済学的見方・考え方を説明できる	講義で説明された基本的な経済学的見方・考え方を凡そ説明できる。	基本的な経済学的見方・考え方を説明された際、その内容を理解できる。	基本的な経済学的見方・考え方を説明されても、その内容を理解できない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回　そもそも経済学とはなにか？--Economicsと「経済学」	ミクロ経済学とマクロ経済学の内容構成に目を通してくる	40分
第2回　ミクロ経済学の基本--需要と供給	日本の需要と供給に関する最新のデータを調べてくる	30分
第3回　消費者はどう行動するのか？--家計の消費・所得効果・代替効果	消費者行動について予習してくる	30分
第4回　企業はどう行動するのか？--企業の目的・利潤最大化	企業行動規範について予習してくる	30分
第5回　小テスト1(グループワークを含む)	過去4回の講義内容を復習してくる	30分
第6回　市場の機能と価格メカニズム--完全競争・寡占市場	市場の機能について予習してくる	30分
第7回　マクロ経済学の基本--マクロ経済活動の捉え方	マクロ経済活動について予習してくる	30分
第8回　GDPはどう決まるのか？--国民所得の決定メカニズム	国民所得について予習してくる	30分
第9回　マクロ経済活動主体の行動--家計の消費・企業の投資・政府の役割	消費者、企業と政府の三者間の関係について予習してくる	30分
第10回　小テスト2(グループワークを含む)	過去4回の講義内容を復習してくる	30分
第11回　政府の財政政策--財政緩和・財政赤字（政府の補助金についてディスカッション）	財政出動について予習してくる	30分
第12回　金融政策--中央銀行の役割・日銀の金融政策	中央銀行の役割について予習してくる	30分
第13回　インフレとデフレ--よいインフレと悪いインフレ	日本とアメリカのインフレについて予習してくる	30分
第14回　貿易と外国為替--経済のグローバル化についてのディスカッション	日本の輸出入に現れた円高円安の影響について予習してくる	30分
第15回　小テスト3およびまとめ	過去4回の講義内容を復習してくる	30分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント（小レポート）をまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。　その他の評価配分は、以下のとおりである。 30%の小テストを3回実施、残りの10%は各学生の講義への関与度合いで採点する。		
課題に対してのフィードバック		
小テストに関しては、テスト後に記載すべきだった重要なポイントを解説し、加えて模範解答を示して対応する。		
教科書・参考書		
『図解大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』　井堀利宏、KADOKAWA、2020年（教科書の該当ページを開きながら解説する）		